

(別紙4(2))

事業所名:グループホームあじさい「ほてい」

目標達成計画

作成日: 平成28年 2月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	経験年数の少ない(当事業所が初めて)スタッフが多いため、認知症の理解等が低く、誤った対応をしてしまう場面が見られる。	全スタッフが正しい介護技術や認知症についての知識を身につけ、場面にあった対応ができるようになる。	月1回、ユニット会議にて勉強会を行い、知識の研鑽に努める。また、会社の福利厚生の一環である介護職員初任者研修や介護福祉士の取得補助制度の活用を促し、外部研修への参加を奨励し、知識・技術の習得を目指す。	6ヶ月
2	26	現場のケアにケアプランが十分に活かされていない。	スタッフ一人一人がプランの内容を理解し、プランに沿ったケアができるようになる。	利用者様お一人にスタッフ一人が「ケース担当」として付き、「ケース担当者」を中心にプランの浸透を図る。また、モニタリング時にノート等を活用して全スタッフの意見を反映し、皆がプラン作成に参加しているという意識を持てるように努める。	6ヶ月
3	4	運営推進会議への家族様の参加が少なく、家族様のホーム運営でのご意見が把握しきれていない。	多数のご家族様に参加をして頂き、多方面からのご意見をお聞きし、ホーム運営に役立てていけるようになる。	現在、奇数月の最終金曜日に定例開催をしているが、今一度家族様に参加可能な日時を聞き取り、柔軟に会議時間を設定することで、少しでも多くのご家族様が参加できるように努める。	6ヶ月
4	35	避難訓練は定期的に行われているが、消防署や地域との協力体制は十分ではない。また、非常用食料や内服薬等の確保についてもホーム内で意見交換するには至っていない。	消防署や地域等との連携を図り、災害時は地区の消防団等と協力して対応でき、備蓄品については、備蓄量や管理方法について整備することを目指す。	避難訓練については継続して定期的に行い、消防署、地域との連携については、今後の協力体制をホーム内で検討する。備品の備蓄に関しては、法人として整備に努めている。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。